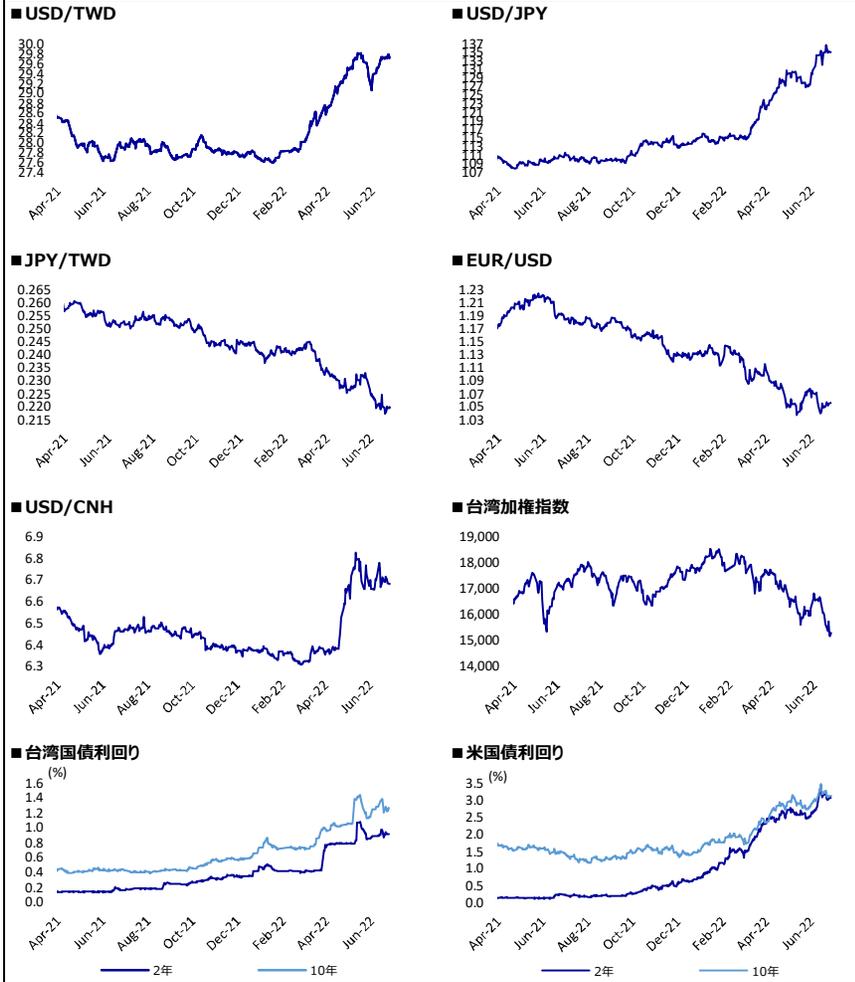


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルはほぼ変わらず。週初6/20は29.760でオープン後、外国人投資家のドル買いから上昇したが、29.800を前に輸出企業のドル売りが入り、下げに転じると一時29.70近くまで下落。一巡すると、その後は29.75付近まで戻した。6/21は台湾株が反発し、台湾ドル買いが優勢となり一時29.700まで下落。輸出企業のドル売りも一部入ったが29.700を割り込むまでにはいかず、その後は狭いレンジでの推移が続いた。6/22は台湾株がじりじりと下げ続けると外国人投資家の台湾ドル売りが加速し、一時29.800をタッチ。6/23は軟調な台湾株の推移につられて29.81付近まで上昇したが、月末近くで輸出企業のドル売り需要もあり、上値は重い展開となった。6/24はオープン直後に一時29.815まで上昇したものの、台湾株が堅調に推移する中、すぐに戻し、29.74付近まで下落。その後はレンジで推移し、最終的に先週比はほぼ変わらずの29.732で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は229.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇し約24年ぶりの高値を更新。週初6/20は134.82でオープン後、一時135円台半ばまで上昇したが、急激な金融引き締めによる景気後退懸念からリスクオフの円買いが入り、134円台半ばまで下落。売り一服後は米国休場であったが、135円台に戻した。6/21は欧州株が堅調に推移するとセンチメントが改善し、円は売られ136円台前半まで上昇。その後も前週下落した米株が反発したことに加え、翌日にパウエルFRB議長の議会証言を控える中、米金利が上昇すると、ドル円は一時136.71まで上昇し、約24年ぶりの高値をつけた。6/22は利益確定の売りや木原官房副長官の円安けん制発言もあり、135円台半ばまで下落。パウエルFRB議長の議会証言では、インフレに戦う姿勢をみせたものの、特段目新しさはなく影響は限定的であった。6/23は欧州のPMIが予想を下回ったことから、欧州株、欧州金利が低下し、加えて米国のPMIも予想を下回り、米金利が急低下するとドル円は一時134.27まで下落。売り一巡後は、次第に米長期金利が上昇するとドル円も135円付近まで戻した。6/24は米金利の低下から一時134円台前半まで下落したがその後135円台に戻すも、FOMC以降注目が高まったミンガン大消費者信頼感指数の確報値はインフレ期待が予想を下回ったことから再び134円台に下落。その後は、米金利の上昇や米株の堅調な推移にサポートされ、上昇し、最終的に先週比0.2%ドル高円安の135.21で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.500-29.800
先週は外国人投資家の売りが入っても輸出企業のドル売り需要が強く上値を押さえた。今週は月末であり、台湾ドル買いが優勢となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：133.00-137.00
今週は米経済指標の発表を複数控えている。足許、米景気後退懸念が高まる中、経済指標の内容に左右される展開となるであろう。弱い内容が続いた場合には、一時的に下落する可能性があるため注意したい。

今週の予定

6/27 (MON)	米5月耐久財受注
6/28 (TUE)	米6月消費者信頼感指数
6/29 (WED)	米Q1GDP確報
6/30 (THU)	米5月個人所得・消費
7/1 (FRI)	台湾6月PMI製造業、米6月ISM製造業景気指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。